



2014年1月 第12巻第1号

かく語りき—聖人の言葉

「君は内から外へと成長せねばならない。君に教えられる人は誰もおらず、君に靈性を備えられる人もいない。君の魂以外に教師はいないのだ」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「一人で、魂にとって有益なことを常に瞑想させてやりなさい。一人で瞑想する者は至高の至福を得るからである」

(グル・ナナク)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2014年2月の予定
- ・関西地区スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年祝賀会を開催
 - ・「Vivek 150 Anniversary Festival」
- スワミー・メーダサーナンダによるキーノート・スピーチ
- ・協会の逗子本部でクリスマス・イヴのお祝い

- ・協会の逗子本部で元旦のカルパタル
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

2月の予定

・生誕日・

スワミー・ブラマーナンダ 2月1日(土)

スワミー・トリグナティターナンダ 2月3日(月)

スワミー・アドブターナンダ 2月14日(金)

・行事・

2月1日(土)

東京・インド大使館例会 スワミー訪印のためキャンセル

2月9日(日)、16日(日)、23日(日)
14:00~15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：新館アネックス

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

2月16日(日) 11:00~16:30

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

場所：逗子別館（アネックス）

6:00 朝拝、朗誦、賛歌

6:30～7:30 瞑想

11:00 礼拝、アーラティ、花奉獻

12:30 昼食（プラサード）、休憩

14:30 朗唱、輪読、スワミー・ブラマナンダによる講話

16:30 お茶

18:15 夕拝、輪読、瞑想

2月22日（土）

シヴァナンダ・ヨーガ東京センターにて講話

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

2月28日（金）

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

関西地区スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀会を開催



11月30日（土）、大阪府吹田市のメイシアター中ホールで、スワミー・

ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀会が開催され、約 350 名が参加しました。

午後 2 時に開幕した第 1 ステージは、英語担当の本田厚美さんと日本語担当の野中ミキさんの司会で始まり、マハーラージと日本ヴェーダーンタ協会の三田村賢一氏、泉田香穂里氏により、ヴェーダの祈りが捧げられました。そして、神聖な雰囲気の中、在大阪・神戸インド総領事アシーム・マハージャン閣下により、スワミーの御写真への献花が行われました。次に、マハーラージが開会の挨拶をし、三田村賢一氏により安倍晋三首相のご祝辞が代読されました。



続いて、アシーム・マハージャン閣下から、スワミー著作『最高の愛』の出版披露をしていただき、スピーチもいただきました。そして、在日インド商業会議所会頭の J・S・ダヤル氏、日本ヨーガ療養学会理事長の木村慧心氏、京都大学教授の田辺明生氏からそれぞれスピーチをいただきました。特に、スワミーのメッセージが現代日本の若者の状況にまさに当てはまると指摘した田辺教授のスピーチは、インスピレーションと思慮に富んでおり、皆感銘を受けました。



午後 3 時 50 分、マハーラージと客席の皆さまのご唱和により、ヴェーダのマントラで第 1 部は終わりました。休憩時、お客様は、ロビーで配られたお菓子を召し上がりながら、スワミーのパネル絵や、販売コーナーをご覧になって過ごされました。



午後 4 時 20 分に開幕した第 2 ステージでは、シュバ小久保チャクラヴァルティ氏とシュバ小久保氏主宰のダンストゥーループ 4 名の方により、インドの古典舞踊「バラタナティアム」が披露されました。続いて、スワミーの生涯を描いたビデオが 1 時間上映されま

した。最後に、大麻豊氏により、お客様と関係者へ謝辞が述べられ、午後 6 時過ぎに終演となりました。

ロビーでは、スワミーの生涯やメッセージに関する美しいポスターが展示され、ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダに関する本も販売されました。また、来場者全員に、スワミーのインスピレーションに富むメッセージが多数収められた小冊子『立ち上がり 目覚めよ (Arise and Awake)』（日英二か国語を掲載）が配られました。



ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・コリア主催「Vivek 150 Anniversary Festival」

スワミー・メダサーナンダによる
キーノート・スピーチ

「韓国へのスワミー・ヴィヴェーカーナンダの紹介」

宗教の調和の預言者たるスワミー・ヴィヴェーカーナンダに敬意を表し、ここソウルにて開催されたスワミーの生誕 150 周年記念祝賀会にこうして参加できますことを大変嬉しく思います。このような祝賀会は世界各地で一年にわたり開催されていますが、

本日のこの祝賀会は、この偉大なる国家の靈性の歴史において大きな足跡となる重要な出来事であり、4世紀の仏教の伝来や19世紀のキリスト教の到来に肩を並べるものとなるでしょう。



私は、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが誕生したインドに生まれるという恩恵に恵まれました。また、スワミーが「真我の悟りと世界への奉仕」という二つの理想の下に創設した無宗派の組織に属し、偉大なるスワミーが解き明かしたヴェーダーンタのメッセージをインド以外の国々で広め伝える仕事に携わるという恩恵に浴しています。本祝賀会の主催者から本日のプログラムのキーノート・スピーチをお願いいただいたのは、おそらくこのような理由からだと思います。

さて、本日の祝賀会に関して、次のような疑問が浮かぶのはもっともなことでしょう。

a. 「ヴィヴェーカーナンダの名前がほとんど知られていない韓国で、なぜこのような祝賀会を行うのか」

b. 「この祝賀会は、在韓インド人コミュニティにとっては意味があり、インド人とつながりのある韓国人が出席しているが、普通の韓国人はこの祝賀会に全く関係ないのではないか」

c. 「この祝賀会は韓国人にとって本当に意義のあることなのだろうか」

これからお話しする中で、これらの疑問について考えてみたいと思います。

古代における韓印の関係は神話や歴史の中にいくつか見受けられ、その中で最も重要なものは、インドから中国を経て韓国へと仏教が伝来したことでしょう。これが韓国に深く恒久的な影響を与えたことは生活のあらゆる点に認められ、今日でさえも明白です。

近年、韓印関係は、特に政財界において新たな局面に進み、両国間で人々の交流が増えています。訪印する韓国人の数は、ここ10年から15年ほどの間に著しい伸びを見せています。こうしたことはすべて、韓印関係史における新たな発展であり、非常に喜ばしいだけでなく、相互利益となる分野においてもさらに推進すべきでしょう。

親愛なるご友人の皆様、両国の関係はこのような状況にあります。こうした関係の構築を検討すべき新たな分野について、私はある分野にご注目いただきたいと考えています。その分野は、

視野に入っていないとまではもうしません。が、一般的には注目されていません。が、その分野こそが、インドの最も特徴的で永続的たる個性、インドの文化文明の礎でありインドらしさの中核を成すもの、すなわち霊的叡智という我が国の豊かな伝統が、現代の韓国社会にとって多少なりともお役に立てる領域なのです。というのも韓国社会は、物質的生活においては目を見張るほどの進歩を遂げていながら、重大な何か欠落している兆候が見られるからです。

例えば、個々人の生活は真の平安にはあらず、むしろストレスに満ちています。家族関係はぎくしゃくし、心の病が蔓延しつつあり、自殺が驚くほど増加しています。こうした状況の原因は、せわしない競争社会に生き、西洋文化の浅薄な面だけに目を向け感覚的享楽を追い求めることにあるように思われます。このように、物質的繁栄だけを強調し追求することは、生活の質を高める一方、個人生活や社会生活における平安や調和を失う原因ともなるのです。このような矛盾にどのように取り組んで解決を図るかは、予てより、韓国を始めとする現代社会の課題であります。

さらに、個人の生活に関して言えば、人間が直面する根本的疑問について考えることがなく、そのため、物質的に

は豊かな生活を送りながらも「満たされない」状況を生む原因となっています。こうした根本的疑問とは次のようなものです。

- a. 私は誰なのか。
- b. 私はなぜ生きているのか。
- c. 人生の目的とは何か。
- d. どうしたら人生を満たすことができるか。
- e. 人生の苦難にどのように立ち向かえばよいのか
- f. どうすれば心をコントロールし強くなれるのか
- g. どうすれば心の平安を持続できるのか

これらの疑問に私たちは目を向けないことが多いものですが、これらは私たちの生活において非常に重要なことであり、納得のいく答えを得る必要があります。さもないと、人生の方向を見失い、満たされないままになってしまいます。第二に、人は仕事をしないではいられませんが、仕事はストレスや緊張を生むものです。ストレスなく仕事をする方法、すなわち、アクティブな生活を送りながら心の平静を保つ方法はあるのでしょうか。

第三に、現代の大きな傾向として顕著なことですが、宗教組織を敬遠する人の数が増えていることです。多くの人々が宗教団体に加わることを望まないの

は、こうした団体の多くには常に限界があるからです。この点についてヴィヴェーカーナンダは、「世界の宗教は血の通わない、まがい物になった」と言っています。ですから、次のような疑問がますます湧いてくるのです。「宗教組織に属さなくとも霊性を実践し霊的になることはできないのか」「宗教と霊性の違いは何か」「普遍的な愛と調和は、すべての宗教の本質であるのに多くの宗教組織に欠けており、むしろそうした宗教組織が教条主義や派閥主義、不寛容に満ちているのはなぜなのか」

さらに、あの手この手で信徒を集めようという競争があり、目先のことにとられる、内紛が発生するなどもあります。最悪なのは、宗教の名の下に他者への暴力の遂行を説くもので、その宗教組織内にそうした考えが根付きつつあるのです。こうした嘆かわしい状況に何か打開策はあるのでしょうか。

このような重要な疑問に対し、インドの霊的叡智の伝統を現代に説く、近代インドの最も偉大な霊性の大使 スワミー・ヴィヴェーカーナンダから、十分に適切な回答を得ることができるのです。ヴィヴェーカーナンダの講話や著作は、古代インド哲学ヴェーダーンタの普遍のメッセージに基づいており、合理性や普遍性、現代性、実践性を特徴としています。

スワミーは単なる宗教家だったのではなく、それを大きく超えた存在でした。人道主義者であり、社会改革者であり、教育家、愛国者、世界市民でありました。また、偉大な組織の創設者でもあったのです。

スワミーは諸宗教の調和を提唱しただけでなく、伝統主義と近代主義の融合、物質的繁栄と霊的価値観の融合、東洋と西洋の融合、そしてローカリゼーションとグローバル化の融合の不屈の擁護者でした。

だから、マハトマ・ガンディー、ラビンドラナート・タゴール、シュリー・オーロビンド、ジャワハルラール・ネルーなどスワミーと同時代のインドの偉人らや、レフ・トルストイ、ロマン・ロランなどの世界的思想家らが、スワミーを評価し深い敬意を払っていたのです。例えば、ラビンドラナート・タゴールはロマン・ロランへの書簡の中で次のように語っています。「もしインドを知りたいと思われるなら、ヴィヴェーカーナンダを研究なさい。彼はすべてが肯定的で、否定的な部分は全くありません」

バラク・オバマ米国大統領のような世界の指導者らも、最近のスピーチの中でスワミーを評価しています。2013年1月28日、英国議会は、スワミーが「宗教間の調和と理解を助

長・促進し、宗教を異にする人々による国際レベルの対話に貴重な貢献」を果たしたのを認める動議を可決しました。また、ある報告によると、マイクロソフト社の創立者であるビル・ゲイツ氏は、寝る前に必ずスワームージの著作を数ページ読むと言っていたそうです。

ではここで、ヴィヴェーカーナンダの言葉をいくつかご紹介しましょう。時間の関係上説明はしませんが、これらの言葉は、先ほど申し上げた重要な問題を解決するヒントとなるでしょう。

a. 人生について

この人生は短く、世のつまらぬ事物は移り変わる。しかし、他者のために生きる人々だけは生きる。その他は、生きているというよりは死んでいる。

b. 宗教について

宗教とは教義にあるのではなく、知的な討論にあるのでもない。宗教とは、在ること、そして成ることであり、悟りを得ることである。それぞれの魂が神たる可能性を秘めている。内面と外面の性質を制御して、この内なる神性を現すことが宗教のゴールである。

c. 改宗について

キリスト教徒がヒンドゥー教徒になることを私が望んでいるかだつて？とんでもない！ヒンドゥー教徒や仏教徒

がキリスト教徒になるのを望んでいるかだつて？とんでもない！キリスト教徒はヒンドゥー教徒や仏教徒になるのではないし、ヒンドゥー教徒や仏教徒がキリスト教徒になるのでもない。しかし、各人が他者の霊性を吸収し、同時に自身の個性を保ち自身の進歩の法則に従って成長を遂げなければならない。

d. 信仰について

信仰、信仰、自身への信仰、神への信仰—これが偉大さの秘密である。たとえ君たちが三億三千万の神話の神々を信仰し、また外国人が君たちの中に連れて来たすべての神々を信仰するとしても、自分自身への信仰を持たないなら、君たちへの救いはない。自身を信じ、その強さの上に立って強くなりなさい。

e. 弱さの克服について

弱さを克服する方法は、弱さについてくよくよ考えるのではなく、強さについて考えることだ。自分の中にすでに強さがあることを人々に教えなさい。強さは生命であり、弱さは死だ。

f. 個人や国家を偉大にする方法について

あらゆる人間、あらゆる国家を偉大にするのに必要なことが三つある。(1) 善の力の確信、(2) 嫉妬と迷信の不在、(3) 善人になろうとし善を為そうとし

ているすべての人に手を貸すことである。

今申し上げた数例から、スワームージのメッセージが深遠で深い霊性を有していながらも非常に力強く、フランスの高名な作家でノーベル賞受賞者のロマン・ロランがなぜ世界に注目を喚起したのかがお分かりになるでしょう。しかも、スワームージがこうしたメッセージを放ったのは百年以上も前なのに、これらのメッセージは現在にも非常に当てはまる内容なのです。

スワームージは諸宗教の調和の熱心な支持者であり、様々な機会に、特に1893年にシカゴで開催された第1回万国宗教会議で諸宗教の調和について語っています。英国の有名な雑誌『The Economist』の出版社が発行する、ライフスタイルと文化に特化した隔月雑誌『Intelligent Life』によると、この会議でのスワームージの歴史的スピーチは、これまでに文書で記録が残っているすべてのスピーチの中で最高との評価を受けました。

スワームージはスピーチの中でこう語っています。「私は強く望む。今朝この会議を祝して鳴り響いたあの鐘が、すべての狂信に、剣やペンによるすべての迫害に、そしてこれらと同じ道をたどらんとする人々の中に在る無慈悲の心に、終焉を告げる弔鐘であること

を」

このスピーチが非常に大きな影響を与えた理由は、スワームージの発言が、自身の師たる、近代インドの著名な聖者シュリー・ラーマクリシュナの言葉「信仰の数だけ道がある」に基づくものであったからです。

親愛なるご友人の皆様、以上の点から、この祝賀会は開催するだけの価値が十分にあるのだと分かっていただけのことと存じます。そして、これをきっかけとして、この国においてスワームー・ヴィヴェーカーナンダの本格的な研究が始まるよう強く望みます。スワームージの研究やそれに伴う活動は、韓国の皆様の個人的・社会的生活の向上に大きく役立つでしょう。

そして、スワームージを研究する最も良い方法は、スワームージについての研究ではなく、『カルマ・ヨーガ』や『ギヤーナ・ヨーガ』などのスワームージの著書を研究することでしょう。私の知っている限り、現在、ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダに関する本やヴェーダーンタに関する本は、韓国語ではほんのわずかしかなかく、こうした書籍をもっと発行する必要があります。

ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・コリアは昨年創設されたばかりで、イ

インド大使館など諸方面のご協力を得て本日のこの素晴らしい祝賀会を開催されました。このソサエティが、この国においてヴェーダーンタとスワームージーのメッセージを実践・普及する道具となり、この国とこの国の皆様のお役に立てますようお願いいたします。本日ここにお越しの皆様、特にインドを研究されている韓国人の先生方、ヨーガ・グループの韓国人指導者の方々など、インドの霊性や文化伝統を少なからずご存じで理解されている方々、また在韓インド人コミュニティの方々をお願いいたします。創設間もないソサエティがその大きな使命を果たすことができるよう、どうぞご支援ご理解の程よろしくをお願いいたします。

オーム、シャンティ、シャンティ、シャンティ、ハリ、オーム。カムサハミダ（ありがとうございました）！

協会の返子本部でクリスマス・イヴのお祝い

2013年12月24日（火）午後7時30分より、日本ヴェーダーンタ協会は返子本館で、毎年恒例のクリスマス・イヴのお祝いを行いました。

当日は、ボランティアの方々が始時間前に集まってクリスマスの飾り付けをしてくださいました。本館2階のバルコニーには「Merry Christmas」の文

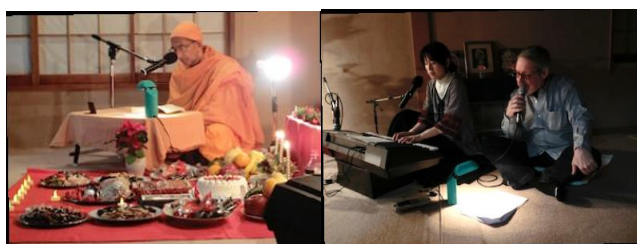
字の形をしたライトをディスプレイし、協会の丘の下を走る電車や道路からも文字が光るのが見えました。2階の礼拝室には特別な祭壇が設置され、最上段には瞑想するイエス・キリストの絵が置かれ、その下には、『ラーマクリシュナの福音』にも出てくる『聖母子像』の模写が飾られました。



丹念に作られたリースやブーケ、ポインセチアの鉢で祭壇が飾られ、様々なお菓子やビスケット、果物、キャンディーなどが箱や包みから出され供物として美しく盛られました。キャンドルや電気の灯明が点火されると、マハーラージが一同に開始を告げ、礼拝が始まりました。

新約聖書の『マタイによる福音書』の章から数節を英語と日本語で輪読し、マハーラージがそれについて解説を行

いました。そしてマハーラージは、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ミッションで伝統的にクリスマス・イヴを祝うのはなぜか、その始まりを簡単に説明しました。お話の合間に参加者全員が、ロニー・ハーシュ氏と泉田香穂里（シャンティ）氏のリードで、クリスマス・キャロルを英語と日本語で歌いました。



その後お祈りと瞑想を行い、階下に降りて、皆で一緒においしいプラサードとお菓子をいただきました。

協会の逗子本部で元旦のカルパタル

1月1日（水）、午前11時30分から日本ヴェーダーンタ協会逗子本館にて毎年恒例の元旦のカルパタルを行いました。今年の参加者にはインド人、日本人の他、ベネズエラやモロッコ、韓国、中国など諸外国出身の留学生・社会人の方もいらっしゃいました。プログラムは、マハーラージと参加者によるヴェーダの平和のマントラ詠唱で始まり、続いて英語と日本語で聖典を輪読し、仏教の聖句を朗唱しました。

次に、モロッコの留学生2名に前に出ていただき、イスラムの礼拝の仕方について説明していただいて実際の礼拝を見せていただきました。祈りの言葉は大変美しい旋律で、参加者の多くにとって意味は分からなくとも心に響くものでした。そして、韓国の方1名にも前に出ていただき、韓国の家族や親戚同士の新年の挨拶について説明していただき、実際に挨拶をご披露いただきました。挨拶には凜とした礼の作法が含まれており、日本との文化的共通点が感じられました。また、熱心なカトリック教徒の留学生レオ氏に、キリスト教の祈りを捧げていただきました。

その後、マハーラージが短い講話を行い、「ラーマクリシュナ・ミッションと世界中のその支部では、すべての宗教に敬意を払っています。日本ヴェーダーンタ協会でも、イエス・キリストや



その後、マハーラージが短い講話を行い、「ラーマクリシュナ・ミッションと世界中のその支部では、すべての宗教に敬意を払っています。日本ヴェーダーンタ協会でも、イエス・キリストや

ブツダの像を礼拝室に飾って礼拝し、生誕祭も行います。イスラム教には神像がないためイスラム教の像はありませんが、コーランの輪読を週一回行っています」とお話ししました。



講話の後、皆で昼食のプラサードをいただき、午後 2 時頃、マハーラージと 20 名程で協会を出発して徒歩で鎌倉に向かいました。



初めに高德院を参拝して大仏に供物を献上し、境内の茶店の前で休憩して皆で茶菓をいただきました。続いてバスに乗って鎌倉駅に行き、近くにあるカトリック雪ノ下教会を参拝しました。教会を出る頃には外はすっかり暗くなっていました。そして再び徒歩で鶴岡八幡宮に参拝し、解散しました。文化や宗教の違いにとらわれない、多様性と調和に満ちた素晴らしい元旦となりました。

後日マハーラージは、元旦という特別な日に逗子協会で初めて、キリスト教、仏教、ヒンドゥー教、イスラム教および韓国の祈りを皆で分かち合うことが

でき、大変嬉しかったとコメントしました。





忘れられない物語

目覚め

霊性は目覚めを意味します。たいてい
の人は眠った状態なのですが、そのこ
とに気づいてもいません。眠ったまま
この世に生を受け、眠ったまま生き、
眠ったまま結婚し、眠ったまま子供を
育てます。そして、一度も目覚めるこ
となく眠ったまま死んでいくのです。
人として存在することの素晴らしさを
全く理解していないのです。ご存じの
ように、すべての神秘主義者は一カト
リック、クリスチャン、非クリスチャ
ンなど、どんな神学理論であれ宗教で
あれ、ある点で一致しています。それ
は、「あるがままでよし」ということ
です。何もかもがめちゃくちゃでも、あ
るがままでいいのです。確かに矛盾し
ていて変ですが、悲しいことに、たい
ていの方は眠った状態なので、万事こ
れでよしということに全く気づかない
のです。皆、悪夢を見ているのです。

昨年、スペインのテレビ番組で聞いた
話です。ある父親が息子の部屋のドア
をノックし、「ハイメ、起きなさい」と
声をかけました。ハイメは「起きたく
ないよ、パパ」と答えました。父親は、
「起きなさい。学校に行かなくちゃな
らなだろう」と怒鳴りました。ハイ
メは「学校には行きたくないよ」と答
えました。「なぜだ」と父親が尋ねると、
「理由は3つあるよ」とハイメは答え
ました。「まず一つ目に、とても退屈だ
から。二つ目に、子供たちが僕をから
かうから。三つ目に、僕は学校が嫌い
なんだ」そこで、父親は言いました。「そ
れじゃあ、おまえが学校に行かなくち
ゃならない理由を3つ言おう。まず一
つ目にそれはおまえの義務だからだ。
二つ目に、おまえは45歳だ。三つ目に、
おまえは校長だからだ」

目覚めなさい、目を覚ますのです！あ
なたはもう大人なのだから。いい大人
がまだ眠るのですか。目覚めなさい！
おもちゃで遊ぶのをやめなさい。幼稚
園を辞めたいと多くの人に言われても
信じてはいけません。信じてはいけな
いんです！皆あなたに壊れたおもちゃ
を直して欲しいだけなんです。「妻を返
してくれ。仕事を返してくれ。お金を
返してくれ。私の名声や成功を返して
くれ」望んでいるのはこれなんです。
おもちゃを取り換えてもらいたい、そ
れだけなんです。最も優秀な精神分
析医だって言うでしょう、人は本当は

治療されたいわけではないんだって。
皆安心したいだけなんです。治療は痛みを伴いますからね。目を覚ますのは嫌なものです。ベッドの中は気持ちがいい。起こされるのは苛つきます。だから、賢いグルは人々を目覚めさせようとはしないのです。私もここで賢くなって、眠っているなら起こすのは一切やめたいものです。時々「目覚めなさい」とは言うものの、本当は私にはどうでもよいことです。私は私のことをするだけ、私のダンスを踊るだけです。これがあなたのためになればいいし、ためにならないなら残念です！アラブ人が言うように、「雨は同じように降るが、沼地では棘のある植物が育ち、庭では花が育つ」のです。

アンソニー・デ・メロより

今月の思想

「人は悪しきことより恩恵に気付く方が遅い」

(ティトゥス・リウィウス)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp